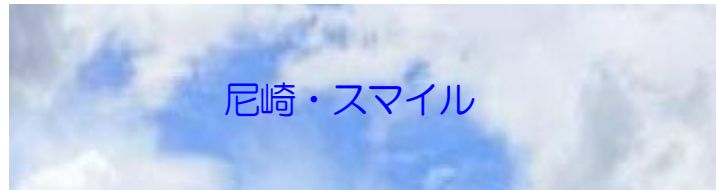


## 2013年度 事業報告書

### 特定非営利活動法人 尼崎・スマイル



#### 1、 事業内容の確認

##### 【事業内容】

- (1) 日常生活支援事業
- (2) 自立支援事業
- (3) 訪問介護事業
- (4) コミュニティーハウス事業

##### 【目的】

この法人は、これから生活保護を受けようという人や、現在保護を受給している人などに関して、お互いの支えあいを大事にした生きがいある生活づくりのために、安否確認などの事業を行うことにより、もって自分自身や他者の生き方も受容しあい、健康づくりや生活の安定を図り、支えあい助け合える仲間として楽しく、共に学び成長しあえるいきいきとした地域コミュニティの創造を目的とする。

##### 【特定非営利活動の種類】

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動

#### 【平成 25 年度 各種事業 活動報告】

##### 1. 日常生活支援事業

- ・ 相談活動
- ・ 食糧援助
- ・ 安否確認

○武庫川周辺の野宿の方への支援活動は概ね実施することができた。多くは名前も知ることができ、個人的な関係をつくることができた。相談活動の充実が図れている。しかし関係のあった方が野宿で亡くなられたことは悲しい出来事であった。

##### (実施月・実施回数)

- ・ 毎週 木・土・日曜日、随時 (12月～3月 計50回)

## 2. 自立支援事業

- ・役所への隧道
- ・就労支援
- ・コミュニティー

(実施月・実施回数)

- ・随時 (12月～3月 計6回)

## 3. 訪問介護事業

- ・居宅訪問
- ・健康観察
- ・病院への隧道

(実施月・実施回数)

- ・随時 (12月～3月 計40回)

## 4. コミュニティーハウス事業

→ (実施せず)

○2. 3. 4. の事業については助成金や寄付金を当てる計画であったが、現状としては助成金は0円、寄付金は3万円(2名)であった。特に4. の事業については金額も大きく今年度の実施は適わなかった。来年度への課題である。また寄付金の使途は概ね日常支援事業に当てたが、野宿で現金収入が無い方には、食糧援助と共に現金支給にも当てさせていただいた。不足分についてはボランティアの個人持ち出しとした。

自立支援・訪問事業については、昨年の実質活動開始から数えると概ね10人ほどの野宿等の方が、生活保護に入られ、施設やアパートに移られた。定期的に数人の方を訪問し、また別の方を不定期に訪問活動を続けている。主に、話し相手となる支援をしている。役所への対応等の相談にも乗っている。

○4. の事業については上記の通りであるが、建設に関わる活動を通して、告知、募金、建設の難しさを実感している。宣伝、募金方法、建設計画の規模等を含め26年度事業としての計画を練り直す必要がある。

阪神 13版△ 2013年(平成25年)7月17日 水曜日 第1頁

### 路上生活者救おう

## NPO立ち上げへ

#### 宝塚の94歳活動家とタッグ

#### 尼崎の教会の牧師

武庫川沿いにテントを暮らす人を開き、尼崎市に申請する。路上生活や貧困に苦しむ人が自立できるよう手助けする活動をしていくという。

佐藤きよ子さん(94)＝宝塚市＝田町5丁目にある尼崎竹谷教会の牧師に就いた。4年前から大阪市西成区の路上生活者の支援をしてきた西川さんは、武庫川の河川敷に暮らす約100人のもとにも「夜回り」をして話を聞き、食糧を渡したり、自治体の福祉担当の窓口付き添ったりしてきた。中には障害を持つ人や精神的に不安定な人、働く場がない若者もいた。生活保護申請には、住所の記入がなければ受給できない。1人でも多くの人に屋根のある暮らしをと思いい、空き家や空き地を利用して、彼らが住めるシェアハウスを造りたいと考えるようになった。

そこで、日本初の女性国會議員で、7年前から武庫川沿いや西成区に毛布や食料を送って支援してきた佐藤さんに、活動の「顔」になってもらおうと声を掛けた。佐藤さんは「同じ志を持つ人と出会えた。みんなが本気の支援に取り組みたい」と意気込む。

2人の活動に参加することにした堀一則さん(59)は昨年10月から武庫川沿いにテントを張って暮らしていた。4カ月目、やつれてきていた堀さんに西川さんが声を掛けた。毎朝やパンをもらい、当面のお金を西川さんに借りてテントから出た。今は、庭の手入れや買い物の手伝いなどの仕事をしている。「今まで失敗続きの人生だった。少しでも返したい」と話す。

西成区周辺で約20年間、路上生活者の支援をしてきた松井敏さん(63)も協力する。同区には保護施設や安いアパートはあるが、いったん路上生活をやめても、人とのつながりができずに、再び路上に戻る人も多いという。「行政の隙間を埋めるようなサービスができるよう、知恵を絞りたい」と話す。

西川さんは夜回りなどの活動をしてくれる人や出資者を募っている。問い合わせは西川さんのメール (Yodas345@doca.hat.ne.jp)。

(林夢夢)



武庫川沿いでテントを張って暮らす人を助け、顔や必要な物などを聞く西川さん(左)と堀さん(右)月、西川さん提供

尼崎の教会の牧師

武庫川沿いにテントを暮らす人を支援する尼崎市の教会の牧師西川一さん(54)＝西成区＝と、路上生活者に毎冬毛布を送っている佐藤きよ子さん(94)＝宝塚市＝が、NPO法人設立を目指し、支援者を募集している。28日に総会

西川さんは今年4月、尼崎市浜田町5丁目にある尼崎竹谷教会の牧師に就いた。4年前から大阪市西成区の路上生活者の支援をしてきた西川さんは、武庫川の河川敷に暮らす約100人のもとにも「夜回り」をして話を聞き、食糧を渡したり、自治体の福祉担当の窓口付き添ったりしてきた。中には障害を持つ人や精神的に不安定な人、働く場がない若者もいた。生活保護申請には、住所の記入がなければ受給できない。1人でも多くの人に屋根のある暮らしをと思いい、空き家や空き地を利用して、彼らが住めるシェアハウスを造りたいと考えるようになった。

そこで、日本初の女性国會議員で、7年前から武庫川沿いや西成区に毛布や食料を送って支援してきた佐藤さんに、活動の「顔」になってもらおうと声を掛けた。佐藤さんは「同じ志を持つ人と出会えた。みんなが本気の支援に取り組みたい」と意気込む。

2人の活動に参加することにした堀一則さん(59)は昨年10月から武庫川沿いにテントを張って暮らしていた。4カ月目、やつれてきていた堀さんに西川さんが声を掛けた。毎朝やパンをもらい、当面のお金を西川さんに借りてテントから出た。今は、庭の手入れや買い物の手伝いなどの仕事をしている。「今まで失敗続きの人生だった。少しでも返したい」と話す。

西成区周辺で約20年間、路上生活者の支援をしてきた松井敏さん(63)も協力する。同区には保護施設や安いアパートはあるが、いったん路上生活をやめても、人とのつながりができずに、再び路上に戻る人も多いという。「行政の隙間を埋めるようなサービスができるよう、知恵を絞りたい」と話す。

西川さんは夜回りなどの活動をしてくれる人や出資者を募っている。問い合わせは西川さんのメール (Yodas345@doca.hat.ne.jp)。

(林夢夢)

佐藤きよ子さん